The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	未来共生リーディングス 8号 はじめに
Author(s)	田川, 千尋
Citation	未来共生リーディングス. 2015, 8, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/54463
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

はじめに

今日、グローバル人材の必要性が強調されている。この理由として、経済のグローバル化があげられる。また、我々の抱える問題が、一カ国では解決できないものとなっていること、グローバルイシューの高まりが挙げられる。経済問題、エネルギー問題、環境問題、食料問題等、これらを解決するためにローカルな問題からグローバルな問題まで、広い視野で問題に取り組むことができる高度な力を持った人材の育成が世界的に求められている。

日本においても昨今政策や経済界を中心に急激にグローバル人材育成の必要性が強調され、このことが高等教育に課された新たな使命となっている。編者の所属するリーディング大学院もこのような流れを背景に設置されたものといえる。

高等教育の現場ではこれらの新しい課題にどのように向き合い、自らの再定義を試みているのか。本リーディングスでは、経済統合の中にあって人的流動性という点では著しい欧州にあるフランスを事例に、その高等教育が、すでに抱えている課題に加え、これらの新たな課題を前にどのような議論をし、変化をしているのかについて見ていくことを試みる。

本編ではまずフランスの高等教育の置かれている状況を国内およびヨーロッパレベルにおいて概観したのちに、具体的な方策について述べる。

第 1 章「フランス高等教育の概況　ヨーロッパにおけるフランス高等教育」ではフランスの高等教育の置かれた状況を国内・国外両方の視点から概観する。

グローバル化と人的流動性に伴いその必要性が急務となったものが教育の質保証である。続く第 2 章「フランスの大学の自律性と質保証」では、質保証が求められる背景について確認するとともに実際にフランスではどのような仕組みで質保証が進められているのかについて詳述する。

質保証の議論を進める中で、学位とは何か、という根本的な問題を考えるのに一つの新たな、かつ重要な視点を与えるのが、フランスに特有の制度である VAE であると考える。これについて第 3 章「社会経験による能力の評価に基づく学位授与方式　フランスにおける社会経験認定制度」で詳述する。

以前より様々なプログラムにより欧州内では教員・学生の交流は進められていたが、これらの流動性はボローニャ・プロセスによりさらに強力に推進されている。これについて第 4 章「フランスおよび EU からみた留学生政策」で詳述する。

ここまでは主にグローバル化にともなう制度的な変化について検討を試みてきた。第 5 章・第 6 章ではグローバル化にともなう具体的な教授方法・内容の変化に触れる議論をしていきたい。第 5 章では、授業の現場で大きな議論の一つとなっている教授言語の問題を取り上げる。（第 5 章「フランスの大学における英語による教育をめぐる論争　外国語による教育にはどのような法的規制が必要か」）ここでは、グローバル化にともない教育現場に急速に求められている英語による授業について批判的な検討を試みる。

技術の発展が目まぐるしく、高度な知識基盤経済社会においては、教育の場で学んだ知識は常にリニューアルされ続けなければならず、生涯学び続ける人材の育成が目指される。知識の伝達からコンピテンシーベースへと教育がパラダイム転換する中で、日本においては「学士力」などジェネリックスキルの育成が高等教育に求められている。コミュニケーション能力や批判的思考能力をどのように育てるかという点は今日大学教育に関する議論で非常に活発に議論されている点の一つだと言える。ここではその一つの例として、バカロレアの哲学試験を例に、フランスでは論理的思考がどのように鍛えられているのかについて一つの考察を紹介する。（第６章「バカロレア哲学試験は何を評価しているか？　受験対策参考書の分析による考察」）

以上、網羅的とは言えないないものの、本編では、グローバル化にともないフランスの高等教育が求められる変化とそれに対する現場の議論を様々な面から紹介することを試みた。多くの先進国の高等教育に共通のこの課題に対しフランスの事例を検討することが少しでも日本への示唆へとつながることができれば幸いである。

2015 年 3 月

編者　田川千尋

執筆者・分担

田川　千尋（大阪大学 未来戦略機構第 5 部門 特任助教）　［第 1 章］
大場　淳　（広島大学 高等教育研究開発センター 准教授）　［第 2 章］
夏目　達也（名古屋大学 高等教育研究センター 教授）　［第 3 章］
園山　大祐（大阪大学 人間科学研究科 准教授）　［第 4 章］
ジャン＝フランソワ・グラジアニ
（大阪大学 言語文化研究科 特任准教授）　［第 5 章］
西山　教行（京都大学 人間・環境学研究科 教授）　［第 5 章］
坂本　尚志（京都薬科大学 基礎科学系 一般教育分野 講師）　［第 6 章］